

## 400号記念特集

合唱団が産声を上げたのが、1971年7月29日、それから36年の歳月が経ちました。その間にきかん紙は400号に至りました。最初の記念すべき「きかん紙」は、ガリ版刷りで、1973年（昭和48年）12月15日の発行です。どういう訳か、1号ではなく0号がスタートでした。「きかん紙」という名称も仮のもので、名前を募集したようですが、結局そのままになってしまったようです。

今号は、400号を記念して、懐かしい方からも原稿を頂きました。

祝400号 . . . . . T . A

400号、おめでとうございます。ただただ頭が下がる思いです。

夏合宿いかがでした。去年の、なぜ夜も練習しないのだとみんなに攻められて、驚いて困ったような嬉しいような複雑な顔をしていた。I君の様子がまざまざと思い出されます。

ところで、センター祭のステージのCDを聴かせていただきました。音や言葉の少しのばらつきが残念でした。長いこと、自前のコンサートをやっていないために、練習での自己満足になり、聴衆を意識した演奏をするための練習になっていないのではないかと懸念しています。私自身の練習姿勢の反省（後悔？）を十分にふまえて、外野から勝手なことをいってお叱りを受けるのを承知で、敢えてひとこと苦言を申し上げました。

あうんの呼吸を感じさせてくれ、人間の共同活動が融合した喜びを味合わせてくれる、これぞほんとのハーモニーと具現する横浜室内合唱団の演奏会を楽しみにしています。

徒然なるままに（合唱団と私）. . . . . T . T

私が横浜室内合唱団に在籍したのは、昭和46年から昭和50年までの約5年間であったと記憶している。あれから約30年。徒然なるままに当時の事を思い出して見ようと思う。

#### 1 そもそも馴初め

私が横浜室内合唱団（以下「合唱団」という）に参加したのは、何かの演奏会（多分横浜国大の混声合唱団の演奏会だと思う）の帰りに「I君やT.I君に声をかけられたからだと思う。それで同期のYA君と一緒に合唱団の練習に顔を出したのが最初だと記憶している。

#### 2 何でも最初

私は合唱団では「何でも最初」であった。

例えば、当時、私は結婚していたのであるが、当然の如く、他のメンバーは独身であった。

その後、合唱団のメンバーも結婚していくのであるが、子供ができたのも私が最初である。これは当然といえば当然のことであるが、子供を連れて練習に来たのも私が最初である。息子（現在は36歳で1児の父親）を教会で遊ばせながら、練習をしたものである。

後年になって合唱団も自分たちの子供をメンバーに加えた親子合唱団になった時期もあると聞いているが、私はその先駆けである。

#### 3 「団長」

いつのまにか私が「初代の団長」になっていた。前述2の経緯からしても、大学の先輩であるという点からしても、やむを得ない流れであろうか。練習に参加できなくなってからも、一時「名誉団長」なる称号を奉られた時期もあったようである。

#### 4 合唱団の「名前」について

当時、合唱団に名前を付けようということになった。私は「コル・云々」とかいうかっこの良い名前にしたいと考えていたのであるが、「横浜室内合唱団」という「地味な」名前になってしまった。多分に、この合唱団を創設したメンバーに遠慮したようである。

#### 5 カップル

当時は私を除いて全員「独身」であったため、当然の如く団員同士の「カップル」が誕生した。夏の合宿で、カップルで湖にボートを浮かべていた仲間を皆でひやかした事など、楽しい思い出である。そのカップルの結婚式で「仲人」を務めたのも、人生最初の経験である。

#### 6 「クーちゃん」のこと

合唱団の仲間に「クーちゃん」という女性がいた。本名は「くるみさん」である。3人姉妹の一人であったが、何番目かは定かではない。幼稚園の保母さんをしていて、私の引越しの日、生まれたばかりの長女の子守りをしてくれた、気持ちの優しい女性であった。そのクーちゃんが病気になった。しかも難病である。ある時、私が病院にお見舞いに行った時、その頃は殆ど人の見分けもつかない状態であったが、お母さんの「Tさんだよ」という声かけに対して、クーちゃんが「寺田さん“助けて”」と私に声をかけてくれた。その時、私はクーちゃんの叫びに、ただ呆然と立ちすくむだけであった。今でもその時の悔いが心の中に残っている。せめてクーちゃんの手を握り締めてやれなかったのか。その後、長い闘病生活の後にクーちゃんは天国に旅立っていった。亡くなった時のクーちゃんの顔は、微塵も長い闘病生活の疲れを感じさせない「おだやかな顔」であった。

#### 7 CD

私は合唱団の生活の中で、合唱曲に対する思い出があまりない。先日、T.A君が当時の演奏会のテープをCDに編集したものを送ってくれた。これを聞いてみてビックリした。なかなかイケではないか。改めて当時の合唱団の演奏を見直した気持ちである。この時代に私も生きていた事を実感している。最近では殆ど毎日、このCDを子守唄代りに聞いている。大体、途中で寝てしまい、最後まで聞いたことはない。

#### 8 今後の事

先日、大学の混声合唱団で1年の時だけ一緒に過ごした仲間で、現在は「心療内科」のクリニックを営んでいるM君の箱根の別荘に、混声時代の仲間が集まって「強化合宿」をやった。人生の泥にまみれて、最近では合唱どころかお茶さえも遠のき、すっかり声も出なくなったと思っていた所、何となくと声が出た。YA君の間違いにすらなながらも、何年ぶりかで合唱を楽しむことができた。「鶴見に顔を出そうかなー」という気に、少しですがなってきました。今の事業が軌道に乗ってきたら、それを実現してみようと考えている今日この頃です。 平成19年8月28日

#### 夏の思い出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・M.H

猛暑続きに地震も続いています。新潟被災地の方の気持ちがすこしわかりました。体温より高い気温というのは体温調整が効かなくなり高熱を発生したときと状態は同じですから、熱をさげるために頭は冷やさねばならない。私の職場では仕事は現場作業なので水がない出張先ではペットボトルの飲料水を頭にかけながら作業したりします。

暑さと言えば10年くらい前に極暑のインドに仕事で行ったときを思い出しました。医者も逃げ出したペスト禍で出発が半年延期。インドには夜の10時に着いた。むせ返る暑さと夜だというのに町は人・人・人と牛・牛・牛。 昼は暑くて活動できないので夜が賑わうのだとか。訪問先はムンバイからさらに国内線で1時間。25人乗りプロペラ双発機は着陸時に頭を下げるのでジェットコースターの気分。タクシーは警笛をならしながら土埃の道を走ります。牛と人間を追い払うのかと思いきや、車のうしろには追い越し時には警笛鳴らせとステッカーがどの車にも貼ってありました。日向の気温は50を超え数分しかいられません。工場建屋内でも35。じっといっただけで汗ばんできます。こんな暑いところで良い製品なんか造れないだろうなと思うが、やつらの一生懸命さには感心、仕様書をひっぱり出して弁解に努めていた。でもいくら性能を満足してもこのアパタでは売り物にならない。要領をえない部下を張り手でかました上司、上下関係は厳しい。部材の移動にはラクダが働いてました。

ムンバイでの仕事のあとは、インドの軽井沢と言われるバンガロールに移動、ここに合弁会社設立可否調査に。さすが軽井沢、高原の町なので気温は35を上回らないとのこと。ただし30は下回らない。暑さはちょうど今年の千葉の夏と同じといえる。会社の玄関前には私のフルネーム入り歓迎の金属製看板が。設計のリーダーであるエキゾチックな美しい女性が会社の説明役。女を使ってきたか・・・ どの部署のひとも一生懸命自慢のアピール。

翌日運転手付のリムジンカーで、インド内陸一の山にドライブ。山登りでオーバーヒート。湯煙が... ノープログラムと言って近所からバケツに水汲んできて補給。何とか始動。草原の山頂からはインド大陸が一望、爽快な気分。イグアナのような 30cm ほどのトカゲがうろうろ歩いてました。ウンチャンはこんないいところは日本にはないだろうと自慢してました。帰国時は飛行場まで連れてきた 5 歳の男の子にお土産渡してお別れ。

さてその後、出発便が待てど暮らせどいっこうに来ない。アナウンスを聞き漏らしたかなと聞いてみたがまだたとのこと。そのうちロビーは身動きもできない混雑に。小競り合いから喧嘩がはじまった。警官が飛んできて威嚇射撃。

やっときた飛行機も探しながらタラップまで走る。

機内は満席で異様な臭い。マドラスまで 1 時間。水割り一杯で落ち着く。

マドラスからは国際線に乗り換え、さらにクアラルンプールでマレーシア航空にトランジット。ここで待っているときに下腹部に鈍痛が。搭乗してからどどんひどくなり、ロッカーにしまってあった薬をとろうとスチュアーデスにバッグを取ってくださいと英語で頼んだら、日本語でどうぞと馬鹿にされ、次々でる食事もすべてパス。トイレと席を行ったり来たり。

成田では死んでました。

中田喜直作 「夏の思い出」

夏がくれば 思い出す はるかなインド 遠い空  
雲の上に 浮かんでる 揺れ揺れる 空の旅  
水割りの 悔いが蘇る 夢見て蘇る 水のおとり  
屍色に たそがれる はるかなインド 遠い空

### 歌声の中に . . . . . Y . Y

「合唱団の親睦会に来ない？」と声がかかったのは、去年の夏。30 年前に、大学を卒業して教職に就いた時、同期に入った(1971 年) M さんに誘われて入った合唱団。ずいぶんのご無沙汰だったけれど、まず、今まで続いていることに感動。久しぶりに皆に会いたくなった。何人かの人を除いて、懐かしい団員の面々。我が家から、鶴見までは、かなりの距離だけれど、毎週土曜日参加させてもらうことになった。会場は、昔と同じなつかしい鶴見のカトリック教会である。



私の合唱暦と言え、小学校 5 年生、担任に声をかけられて、NHK の合唱コンクールへの参加。皆で仲良くうたいましょう、利口な良い子が歌います、歌えば地球もトトトン... が課題曲だった。諫早・長田小学校でのこと。通学に子供の足で片道 2 時間はかかったところに疎開の続きで住んでいた。合唱練習が終わると途中で暗くなる。100 メートルぐらい続く松の木に覆われた墓場を一人で通る。ざわざわと、音を立てる松風の音、黒く立ち並ぶ墓石の数々。急いで走り抜けた。練習のための居残りを続けたのは、歌う楽しさで、合唱練習を止める気持ちになれなかったのだと思う。

6 年生で、街中の北諫早小学校へ転校。担任は敬虔なクリスチャンで、クリスマス近くになると担任から声がかかって、近くのカトリック教会で、ミサ曲の練習が始まった。

中学校では、音楽の授業で、何回か独唱をさせられ、学芸会へ出されたが当日になると咽を痛めて声が出なくてオジャン。 めえ～めえ～森の子山羊 だった。高校では、コーラス部に所属していたけれど、あまり熱心に歌った記憶がない。曲目は忘れたけれど、高校でも文化祭で独唱をとの音楽担当の先生に言われて練習はしたけれど、やはり、咽を痛めて本番はだめ。今思うと、腹式を使っただけの発声がきちんと出来ていなかったのだと思う。もともと、先生に言われて、いやいやながらのことだったので、本人としては公衆の面前に出なくてすんだことでホッとしたのを覚えている。

と、ざっとこんな調子で、きちんと指導を受けたのは、30 年前に横浜室内合唱団に入って、合宿でボイストレーナーに教えてもらった時だと思う。

30年が過ぎて、子育てが一段落した団員達、その親切さ、やさしさは、ちっともかわっていなかった。団員一人一人が、自由に意見を言える雰囲気もかわっていない。合唱団に参加するようになって1年がたった。階段転落から3ヶ月で完全に傷みは消えたが、入院中から50肩が痛み出し、夜も何回も目が覚めるようになった。そんな中8月10日から12日まで、小田急新松田から山へ向かって車で20分の某女子大丹沢宿舎での混声合唱団の合宿へ行った。転落事故やら、団地の自治会の会合やらで、すっかり練習はご無沙汰していた。合唱となると、口があればいいわけで、「50肩」だと歌えないわけではないのを幸いに合宿にでかけた。緑に囲まれた、高台にある宿舎。練習中も「50肩」の左腕は重く楽譜が持ちにくい。夜も、1人の部屋を独占したのだけれど睡眠不足は相変わらずで、朝の練習では、あくびの連発。とうとう午後からのレッスンは、みな1時からをひとり2時からにしてもらって、一時間昼寝。一番長老である私には、皆も大目に見てくれる。年金生活の身に、毎週鶴見までの練習は、交通費を入れて月5000円で痛い。思い切って事情を話して、団を辞めることを宣言したが、「来れる時にくれればいいではないか」とのみんなの温かい配慮に感謝して団継続を決意した。「50肩」への配慮で、重い荷物は駆け寄って持ってくれる団員は、優しい人たちの集まりでもある。

### 大日岳は雨、道の両側は白い花の海・・・・・・・・・・Y.M

今年は、立山の大日三山を、富山から入り信濃大町へ抜ける行程で計画しました。2泊3日を、家の都合で1泊2日に圧縮して実行しました。1日目は1700m付近の大日平山荘に宿泊。宿泊者は私と友人の2名だけで、別荘気分を味わいました。周りは笹原で、立山の連邦が間近に迫っていました。晴れていたのが星がきれいでした。が、次の日は登るにしたがって天候が悪化し、2500mの大日岳に達する頃には雨が降り出しました。その日はずっと尾根道で、登行下行をくり返していました。展望はありませんでしたが、道の両側には主に白い花の海が広がっていました。花は、コバイケイソウとチングルマです。途中で一瞬ですが、雷鳥に会いました。雄大な景色はありませんでしたが、花を堪能した1日でした。雨の中では座って休むこともできず、約9時間の歩行で、やっと室堂ターミナルに着き、ほっとしました。黒部ダムに降りると、日本語は聞こえず、中国語や韓国語が飛び交っていました。ここは日本か?と思いました。



### 「きかん紙」発行回数の変遷

今までの「きかん紙」発行回数の移り変わりを調べてみた。

83年から90年までは、月1回の割合で発行されていたようである。

91年からは、右グラフのようになった。団の活動の低迷期と「きかん紙」担当者の熱意の様子が現れているように思う。

だいたい月1回の発行が妥当な線のようなのだ。

